

# Economic Indicators

発表日: 2021年3月31日(水)

## 鉱工業生産指数(2021年2月)

～自動車の減産を主因に前月比で低下。1-3月期は3四半期連続増産見込みも先行きは下振れリスク～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

(単位: %)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
20	1月	1.9	▲2.4	0.9	▲3.3	2.1	3.6	▲0.3	9.3	▲1.5	0.3	2.7	▲4.1
	2月	▲0.3	▲5.7	1.0	▲5.4	▲1.7	1.6	▲2.3	9.4	1.0	▲5.7	0.3	▲5.9
	3月	▲3.7	▲5.2	▲5.8	▲6.5	1.9	2.9	8.4	12.6	▲9.1	▲9.3	▲4.6	▲5.8
	4月	▲9.8	▲15.0	▲9.5	▲16.6	▲0.3	2.7	13.6	29.2	1.4	▲7.8	▲11.8	▲19.4
	5月	▲8.9	▲26.3	▲8.9	▲26.8	▲2.6	▲0.5	7.3	40.7	▲9.0	▲21.2	▲3.6	▲23.7
	6月	1.9	▲18.2	4.8	▲16.6	▲2.4	▲3.4	▲7.1	22.5	6.7	▲9.1	4.4	▲14.5
	7月	8.7	▲15.5	6.6	▲16.6	▲1.5	▲4.8	▲8.9	17.6	▲1.0	▲14.4	10.1	▲10.4
	8月	1.0	▲13.8	1.5	▲14.2	▲1.3	▲5.9	▲2.0	13.0	▲8.3	▲21.4	0.0	▲10.1
	9月	3.9	▲9.0	3.9	▲9.8	▲0.5	▲5.7	▲4.4	6.7	2.7	▲22.8	5.3	▲4.0
	10月	4.0	▲3.0	4.9	▲3.0	▲1.8	▲8.1	▲3.3	▲0.9	13.4	▲1.8	2.1	1.6
	11月	▲0.5	▲3.9	▲1.2	▲4.0	▲1.5	▲9.0	▲2.2	▲1.7	3.1	4.0	▲4.3	▲4.4
	12月	▲1.0	▲2.6	▲1.1	▲2.9	1.1	▲8.4	2.0	▲3.1	▲5.1	▲6.4	▲1.4	▲1.3
21	1月	4.3	▲5.2	3.2	▲5.1	0.0	▲10.3	▲5.7	▲4.3	8.9	▲1.7	2.8	▲5.4
	2月	▲2.1	▲2.6	▲1.5	▲3.5	▲1.0	▲9.6	1.0	▲4.8	2.9	4.8	▲3.2	▲5.2
	3月	▲1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4月	9.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注) 21年3月、4月は、製造工業生産予測調査の数値

### 〇2月の生産指数は自動車的大幅減産を主因に2か月ぶりの低下

経済産業省より発表された2月の鉱工業生産指数は前月比▲2.1%と市場予測値(コンセンサス: 同▲1.3%、レンジ: 同▲3.0%~同+1.5%)を下回る結果となった。1月が高い伸びとなった反動のほか、半導体不足や福島県沖での地震による工場停止の影響により自動車工業が大幅な減産となったことが主因である。

内訳をみると、自動車工業が前月比▲8.8%(寄与度: ▲1.39%pt)となったほか、電気・情報通信機械工業が同▲2.9%(同: ▲0.26%pt)、化学工業(除.医薬品)が同▲2.7%(同: ▲0.24%pt)となるなど、11業種が低下に寄与した。一方、半導体等製造装置などの生産用機械工業が同+3.7%

(同: +0.28%pt)と高い伸びが続いたほか、電子部品・デバイス工業が同+0.2%(同: +0.01%)と高水準での推移が続いた。世界的に半導体需要が高まる中、半導体関連需要は堅調な推移が続いており、生産のけん引役となっている。

### 〇1-3月期は20年10-12月期から伸びは鈍化も3四半期連続の増産見込み。先行きは下振れリスクも

同時に公表された製造工業生産予測指数では、3月が前月比▲1.9%、4月が同+9.3%となった。また、予測指数の上方バイアスを考慮した経済産業省の3月の補正試算値は同▲1.4%となった。3月は2か月連続の減産見込みも、4月は大幅増産に転じるとの予想となった。

3月の内訳をみると、生産用機械工業が前月比▲15.1%と大幅な減産に転じるとの予想になったほ

か、汎用・業務用機械工業が同▲3.0%、電気・情報通信機械工業が同▲1.6%となるなど、7業種で減産が見込まれている。一方、2月に大幅減産となった輸送機械工業が同+5.1%と高い伸びの予想となるなど、4業種が増産見込みとなった。

4月の内訳をみると、生産用機械工業（同+33.2%）、電気・情報通信機械工業（同+15.2%）、電子部品・デバイス工業（同+10.8%）などが大幅増産の予想となるなど、11業種すべてで3月から増産が見込まれている。

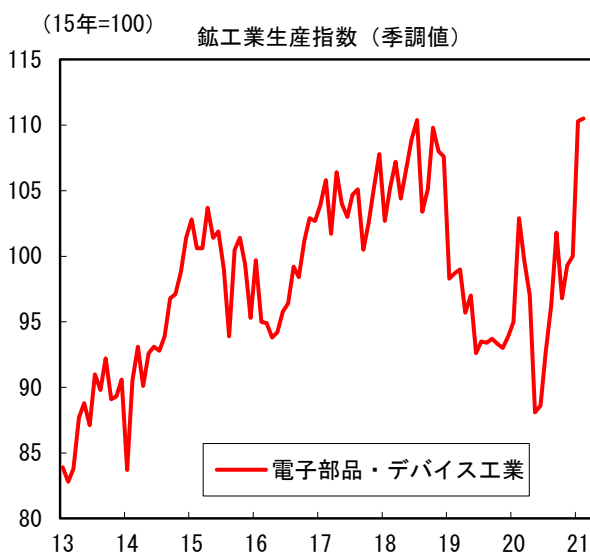
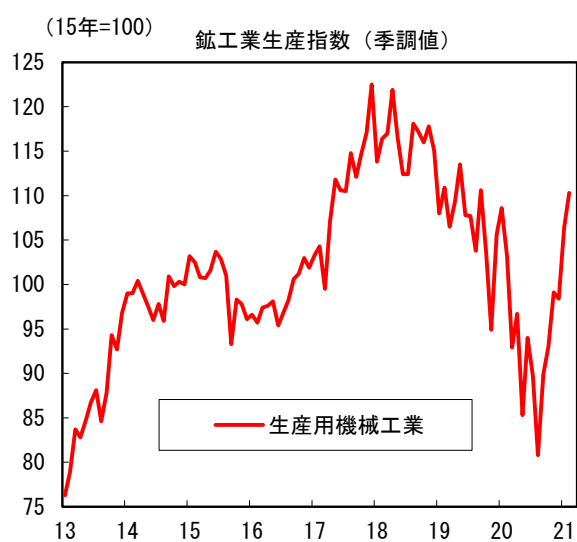
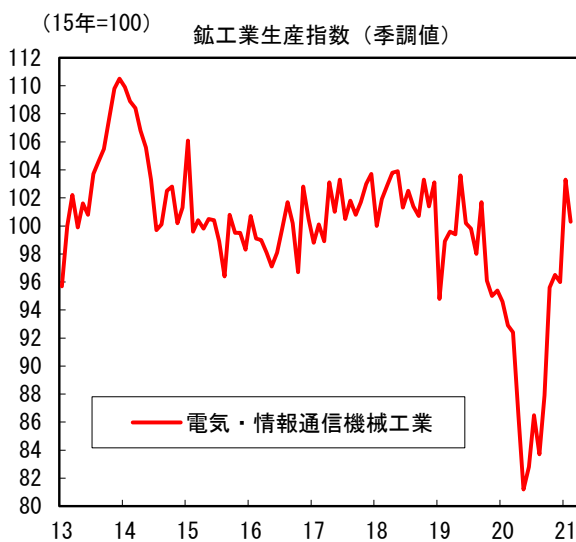
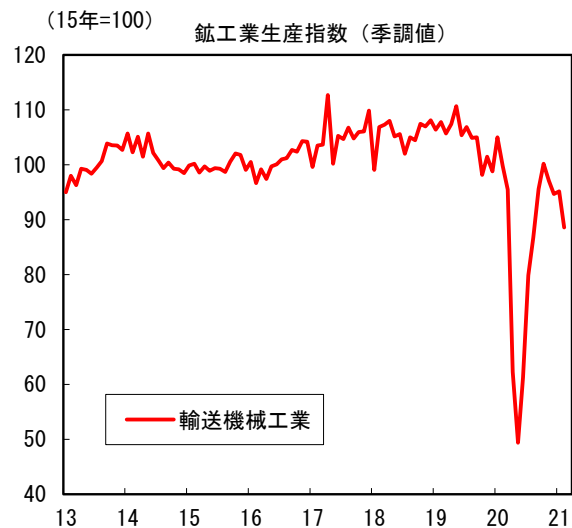
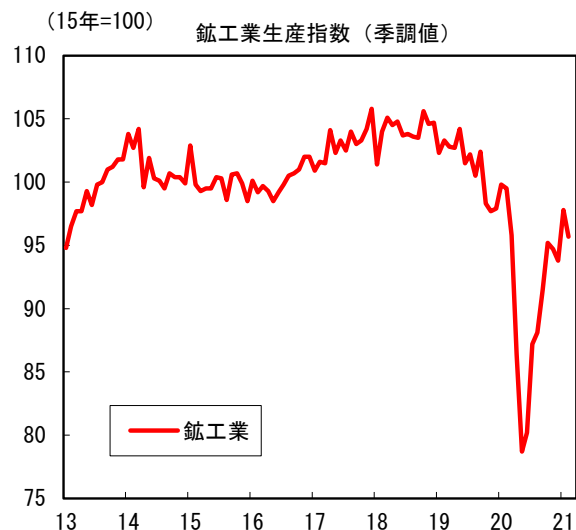
3月の生産指数の伸び率を経産省の補正試算値で仮置きすると、1-3月期は前期比で+1.5%となる。生産回復のけん引役となっていた自動車工業が減産に転じることで10-12月期（前期比+6.4%）から伸びが鈍化するとみられるも、半導体関連需要や資本財の生産が堅調なことから、3-4月期連続の増産が見込まれる。また、4月の予測指数は大幅な上昇に転じる予想となっており、生産は底堅い推移が続く見込みだ。もっとも、実際の数字は予測指数から下振れる可能性が高い。もともと予測指数の数字は下振れる傾向があるほか、3月中旬の半導体メーカーの工場火災による影響は織り込まれていないとみられる。そのため、電子部品・デバイス工業や自動車工業を中心に生産が下振れる可能性が高いだろう。

半導体については、自動車の20年春の落ち込みからの挽回生産などで世界的に需要が高まり、21年初から自動車向けを中心に半導体不足が顕在化した。2月には福島県沖の地震の影響で一部工場が稼働停止となったほか、米国では寒波の影響で海外の主要半導体メーカーの工場での生産が止まるなど、半導体の供給は厳しいものとなっていた。加えて、製品のおよそ3分の2が自動車向けである工場の火災の影響で、自動車の生産を中心にさらなる下押し圧力がかかる見込みだ。現時点での工場の生産再開は4月中旬ごろの見込みで、100%の状態となるのは6月末頃になるとの見込みである。外部委託等での代替生産も行われるとみられるが、自動車産業へは1か月半~2か月分の影響が出るとの見通しである。自動車メーカー各社は一定の在庫は確保しているとみられるも、一部メーカーでは今回の影響で4月末ごろから減産が行われる可能性があるとみられる。また、世界的な半導体需要が高まっている中、被災した分の半導体製造装置の調達が遅れる可能性があるなど、生産回復が後ろ倒しとなるリスクもある。影響が長期化する可能性もあり、不透明感は強い状況だ。

## ○財別の動向

財別でみると、個人消費関連の2月の消費財出荷は前月比▲3.2%と減少、耐久消費財出荷が同▲8.7%となったことが影響した。2月は自動車工業の出荷がマイナスに大きく寄与しており、半導体不足等による自動車の減産が影響しているとみられる。

設備投資関連の2月の資本財出荷（除く輸送用機械）は同+2.9%と2か月連続の増加となった。出荷には輸出向けが含まれることには注意が必要であるが、機械受注（船・電除く民需）が底堅く推移するなど、国内の設備投資需要は明確に持ち直している。



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

